

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100388		
法人名	社会福祉法人 山清福祉会		
事業所名	グループホームほほ笑み		
所在地	熊本市東区戸島西5丁目5番26号		
自己評価作成日	平成30年1月14日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成30年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室は庭への出入りが自由な拭きだし窓を採用し、共有空間の天窗や広いウッドデッキと相まって開放感のある作りとなっている。  
 また隣接の保育園が出来たことで日常的に園児と交流する機会ができた。月1で園児との交流会も行っており、利用者様にとって良い刺激になっている。農作業も利用者、園児、近隣住民と共同で行っており、交流や収穫の楽しみができた。  
 次に有資格の職員が増え、介護技術が高まっている。今後は研修の機会を増やし、認知症に関する技術や知識を更に高めようと考えている。またスキルアップ支援制度の活用で更なる資格取得の支援や、産休や有給の取得をしやすいう、就労環境の整備に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育園と隣接し常に子どもたちの声が聞こえ、合同での行事を楽しむ等、日常的な交流のできる環境にある。職員は個々の介護度・生活歴・病歴等把握し、利用者に愛情を持って働きかけることで利用者の笑顔を引き出しており、仕事を楽しく余裕が感じられた。太陽光発電を設置し、安心して快適に過ごせるよう防災設備や床暖房等の設備も充実させ、猫3匹によるアニマルセラピー等多彩な工夫が行われた、居心地のいい居住空間を作っている。地域住民の協力を得、保育園児と四季折々の野菜づくりや収穫を喜び、運営推進会議委員の協力を得る等、ホームに対する理解も増えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めて管理者と職員とで作成した理念があり、定期的な職員会議の中で、理念の共有を図っている。	開設当時作成された「環境・愛情・清潔・安全」の理念が4色で示され、静かな環境の中、利用者に愛情を持って接することを第一に利用者のケアにあたっている。職員会議で理念について話し合い、共有に努め、ケアに繋げる努力が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、青少協の会議や地域住民の会合に場所を提供している。また地域の中学校や保育園との交流事業も実施している。他、地域住民の方と畑の手入れを行っている。	自治会で定期的実施される地域の清掃活動への参加や、保育園や中学校との交流事業等実施している。地域住民の協力を得、保育園児と入居者と一緒の畑仕事で、四季折々の野菜を作り、収穫して食事に利用し食べる喜びに繋げている。また、地域住民の会合の場として和室を提供しており、調査当日も利用されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の「認知症家族の会」の際、当事業所の和室が活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所でのイベントや入退所の報告、運営状況等を報告している。また出席者との意見交換も行っている。	運営推進会議委員は町内会長・町づくりの会長・老人連合会長・自治会長・校区社協長・ささえりあ託麻職員・家族3名等と多彩な委員の出席を得て開催されている。ホームの現状報告・市からの実地指導の結果・消防訓練の立会いの報告等、細かいところまでオープンにした報告が行われ、質問・意見が出されて活発な話し合いが行われている。今後は、認知症やグループホームについての理解を得る努力をしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、地域包括支援センターの参加や、事故発生時の連携、必要時の相談、報告確認の作業を行っている。	運営推進会議には包括支援センターからの出席があり、ホームの運営への理解を得ている。市担当課へは電話での情報提供の他、困難事例等について相談し懇切丁寧なアドバイスをもらうなど、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束に関するマニュアルを作成している。地震前は禁止行為等を掲示していたが、無くなったままになっており今後考えて行く予定。「身体拘束と気付いていない」「言葉使い」「小さな身体拘束にも気を付ける」等、拘束についての研修を通して理解を深め、小さな拘束も見逃さないケアへ繋げる努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングでの話し合う機会をつくり、虐待への理解を深めている。今後も継続して行う予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解はスタッフによって差があるため、研修の機会を作りたいと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時に説明を行い、理解が得られる様に十分に時間を確保し一方的な説明にならないよう留意している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示している。また管理者が利用者やその家族と交流する機会をつくり現状把握に努めている。	運営推進会議への家族の出席があり、ホーム運営への理解と協力を得ている。面会も多く、意見・要望を聴く機会としており、遠方の家族には電話や手紙での近況報告を行ない、意見・要望を受け対応している。出来ない事はなぜ出来ないかを知らせ、理解を得る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員間で意見交換をし、反映させている。	ミーティングの際に意見や提案を受ける体制づくりが出来ている。日常的なケアの中で、疑問や提案を受けながらケアの方法を話し合うように心がけている。そううつ症の入居者の対応では、精神科受診・薬での対応等多様な面から話し合いを行い、生活を阻害しない程度の薬使用と定期的な受診で利用者のより良いケアに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自のスキルアップ支援制度を策定し、介護に関する資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会やその他研修参加により、情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護スタッフへの情報収集を行い現状把握するとともに、利用者や家族との交流を普段から行いニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護スタッフへの情報収集を行い現状把握するとともに、利用者や家族との交流を普段から行いニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前や初回面談時に聞き取りをおこない、現状とニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日常動作について、出来ることは利用者自身にしてもらったり、共同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を聞いて、必要に応じて家族に協力をお願いしている。(外出、差し入れ、外泊、買い物等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会時に、安心してお話できる環境作りをしている。	家族や親せきの訪問も多くあり、気兼ねなく来ていただくよう配慮している。墓参りや帰りたい等の要望には家族の協力を得、利用者の思いに添う支援に努めている。今は風邪予防のため外出を控えているが、利用者の希望によっては管理者と車でお出掛けする等の配慮もあり、途切れない関係の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時に、何かあれば相談にのる旨の説明を行っている。また必要に応じて情報書の作成も行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族、サービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって意向や希望を把握している。	その日の表情や仕草で利用者の思いや意向の把握に努め、職員間の話し合いにより利用者が心地よく過ごせるよう努力している。利用者との何気ない会話や職員の気付きはSOAP形式の記録や申し送りで伝え、一人ひとりの意向を把握し、共有して利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、サービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによってこれまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族、サービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、サービス担当者から聞き取りによる情報収集や、定期的に行うミーティング時に介護方法の検討を行い、それらの情報を反映させて介護計画作成にあたる。	本人・家族から聞き取りを行ない、担当者会議で話し合いケアマネージャーが計画を作成し、遠方の方や高齢者には電話連絡を行っている。半年に1回、短期目標の見直しを基本とし、介護度変更時や入・退院等の状況の変化時にプラン作成を行っており、利用者の今に沿った介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や入浴時間は本人のペースに合わせて変更をおこなっている。また買い物や外出の希望がある際は可能な限り希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学校、併設の保育園児との交流会をおこなっている。また地域住民の方と畑作りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から月1の往診があり、急な体調変化や怪我の場合はその都度電話相談を行い対応している。また本人や家族の希望に応じて専門医に受診もを行っている。	協力病院がかかりつけ医となっており、月1回の往診が行われ、必要時には病院の看護師や医師に相談できる体制が作られている。緊急の通院は付き添い受診を行っている。また、専門医の往診も月1回行われ、家族の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 作成し、面会時家族に説明を行ない、遠方の方や高齢者には電話連絡を行なっている。	当事業所に看護師がいいため、必要時は協力病院の看護師、医師に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は定期的に連絡を行っており、カンファレンスにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院と本人とその家族を交えて定期的に話し合い、方針を考えていく。	入所時に看取りをしない方針を説明している。医療面での対応、スタッフの体制に制約があり、協力医の協力を得ながら、その時その時の状況に応じてホームで出来る範囲の対応を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講習会を依頼し、AEDの使い方、心肺蘇生法、異物除去、応急処置の仕方等について、学ぶ機会を作っている。利用者の突発的な症状については、24時間、看護師や医師の指示を仰ぐことができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。	消防署の協力を得ながら年2回の防災訓練を実施している。運営推進会議委員の参加を得て実施した訓練では、客観的な視点での意見があり、次回からの訓練に活かされている。消防署の協力により緊急処置やAEDの使い方の講習を実施したり、地域の社会資源として緊急時用にオムツ等の備蓄も行っている。	地域との連携により、訓練時及び災害時の見守り協力等依頼しながら、グループホームの理解を得る取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や研修報告の機会を作り、人格の尊重やプライバシーについて学ぶ機会をもうけている。	身体拘束をしないケアや一人ひとりの人格の尊重等について外部・内部研修で学んでおり、自尊心に配慮した言葉かけや対応等を心がけている。職員の対応に若年性認知症入居者の嬉しそうな笑顔が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解力やペースに合わせて会話をおこない、自己決定しやすい雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等大まかなスケジュールは用意しているが、レクリエーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は各利用者が自由に選択したものを着用している。自力でできない利用者については職員が利用者の好みに合わせて選択している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理前の下準備や、下膳後の片付け等を入居者と一緒に行っている。	音楽が流れる中、U字型のテーブルや大きさの違うテーブルに思い思いに座り、一人で食べる人、介助が必要な人の姿が見られた。調理済みの食事が毎日配達され、一人ひとりに合わせた形態での食事が提供されている。朝食とおやつはホームでの手づくりとなっている。利用者の希望する食べ物は、家族の協力を得て買ったり持ってきてもらったり、畑で採れた野菜を食事に活用する楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の好みに応じてジュースや漬物、ふりかけ等を準備している。また本人が食べやすいように食事形態をその都度検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日2回の口腔ケアの時間を作り、必要に応じてケアを行っている。また定期的に歯科検診を行い口腔内のトラブルが無いよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて時間によるトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。また常時オムツの方も排便を促す為にトイレ誘導することがある。	オムツやりハビリパンツ使用者も様子を見ながらトイレに誘導し、排泄の自立を目指している。水分補給にも注意し、スムーズな排便に繋げるよう配慮している。特殊便座や背もたれつきの便座等が設置され、介護度の高い利用者のトイレでの排泄にも対応した工夫が見られた。3つのトイレには換気扇・空気清浄機・暖房が設置され、快適な排泄への支援が伺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導時に腹部マッサージを行い、排泄を促している。また普段の水分量も気をつけている。便秘については医師に相談して下剤等の使用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って行っているが、利用者の希望で予定を変更することがある。	基本的に週2回、午後からの入浴としているが、希望によって随時入浴が行われている。リフト浴と左右可動式の浴槽が設置され、利用者と職員の負担軽減と安全に配慮された浴槽での入浴が行われている。希望者は同性介助を実施し、期間限定で入浴剤を使用する等の配慮も見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には利用者の自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用しており、更に薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の能力に応じた作業の提供や散歩や買い物、行事活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近所のスーパーの買い物をしている。	ドライブで初詣や花見・紅葉見物に出掛けているが、高齢化に伴いウッドデッキでの外気浴や隣接保育園児の遊ぶ姿を見て楽しむことが多くなっている。また、地域住民や園児と一緒に、菜園での野菜づくりや収穫を楽しむ機会も作られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、レジでの支払いを手助けしながら一緒に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って家族や友人に電話をかけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになった天井や天窓、そして床暖房など、採光や換気に配慮した設計になっている。また和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随時に確保してある。	大きな木組み天井で高窓がある明るいリビングから、掘りコタツのある和室、広いウッドデッキへと続き、広々とした風景が望まれる。リビングには共同制作のお雛様・大きな水槽に熱帯魚・3匹の猫の遊ぶ登り棒・利用者が一緒に集う形の違うテーブル等が置かれ、楽しい雰囲気が作られている。太陽光発電が使用され、床暖房・空調設備・空気清浄機等で快適な環境づくりへの配慮が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みのある居室やフローリングの居室があり、拭きだし窓から中庭・ウッドデッキへ直接出られる様に工夫されている。各居室には、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。	畳やフローリングの居室となっており、どの部屋も外の景色が見えウッドデッキへ出ることができ、採光や換気に配慮された作りとなっている。写真・人形等が飾られており、それぞれその人の思いのこもった部屋作りが見られた。各部屋には空気清浄機と加湿器が置かれ、掃除や整理整頓は職員の手で行い、清潔な環境が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなどを工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。		